

地域に学ぶ

トライやる・ウィーク

6月5日(月)から9日(金)まで市内の各事業所で「トライやる・ウィーク」が実施され、市内4中学校の2年生372人が112の事業所で活動しました。

生徒たちは、この「トライやる・ウィーク」で、いろいろな仕事や地域の人々との触れ合い、様々な場面との遭遇を通して、自分なりの生き方や、目的を見つけ、また可能性に出会った生徒もいたようです。

今月は「トライやる・ウィーク」で活動した生徒の感想を紹介します。



グループホーム竹原野

渡邊千華(生野中学校)

一生で一度のトライやる・ウィークで私が学んだ事は、今までの私の十三年間と同じ位の価値を持つものだったと思います。

おもしろい話や楽しい事も沢山ありました。疲れたり苦労したりすることが山ほどありました。散歩の途中、自分がなぜここに居るのか、誰と居るのが分からなくなり、突然職員の方を怒鳴りつけるなど、お年寄りの行動に私は驚きが絶えませんでした。それは不安症状であるという事を教えてもらったお陰で、私はお年寄りの方々にまつすぐ見られるようになりました。でも、お年寄りの方が不安症状を出された時、私はほとんど何もできなくて、職員の方の後ろから見ているだけでした。お年寄りの気分が良さそうな時はしゃべったりもできたけど、それ以外の時は何だか知らんぷりをしているような感じで、「何でもっと積極的に行動しなかつたんだろう…」と後悔してしまいました。

昼食後、友達と午前中の活動の内容・感想等話し合い、元気をもらって、また精一杯活動をしました。

活動中お年寄りの方や指導者の方が温かい言葉をかけてくださったお陰で、私は楽しく活動をしていく事ができました。沢山のひとこの期間に多く触れ合えた気がします。五日間をふり返った時、「また行きたいな。」と思えた事が、私はとても嬉しかったです。

この一週間の経験・体験を絶対に無駄にする事なく、沢山のひとと触れ合って、人のいろんな所を発見できる充実した生活を送っていききたいと思います。



たいこ弁当

足立一貴(生野中学校)

僕は、この体験活動を終えて、沢山のことを学ぶことができました。

初日、事業所の方々は自分の仕事の手を止めて、優しい目でしっかりと仕事を教えてくださいました。いろいろな仕事に少し戸惑いがありました。非常にわかりやすく、簡単に手を進めることができました。

二日目からは、料理などもしていききました。昼になると、たくさんお客様が来られて、大変だったけど、「ごちそうさま」「ありがとう」と言ってくくださるお客様もいて、少し勇気づけられ、頑張ろうという気になりました。

事業所の方も「がんばってるなあ」など色々言ってくくださり、本当に嬉しかったです。最後の日には、「今までお疲れ様やったなあ」とか「よく働いてくれるから助かったわあ」「寂しいなあ、明日からも来てほしいわ」と嬉しい言葉ばかり言ってくくださりました。

事業所の方々のおかげで充実した一週間でした。すごく楽しかったです。本当にお世話になりました。これからも、仕事をがんばってください。ありがとうございました。